



NTT Secure Platform Laboratories
NTT セキュアプラットフォーム研究所

Copyright(c)2009-2012 NTT CORPORATION. All Rights Reserved.

資料 2

日本の医療を取り巻く状況と 医療ICTの利活用 (NTTの取り組み事例)

2012年11月2日

NTTセキュアプラットフォーム研究所

■日本の医療を取り巻く状況	3
■医療ICTに関するNTTの取り組み	10
◆ID連携・情報流通基盤	
・医療健康共通基盤	11
・遠隔医療・介護	15
◆医療・健康情報の活用	
・保健事業支援	22
・医療健康情報の二次利用	24
■海外展開への取り組み	26
■まとめ	29

日本の医療を取り巻く状況

◆ 少子高齢化の進展

・5人に一人が高齢者

- 全人口中65歳以上 24.1% (2012年現在)
- 高齢者率21%以上の状態“超高齢化社会”

◆ 国民医療費の増大

・H23年度 **37.8兆円** (概算医療費)

- 70歳以上：約17兆円。一人あたり80万円/年

・H47年度 **60兆円**

- 団塊世代が80歳代後半、厚労省推計

◆ 医師不足と地域偏在

・人口1000人あたりの医師数2.0人

- OECD (経済協力開発機構) 加盟**30カ国中27位** (平均3.0人)

・国民1人あたりの年間受診回数13.7回

- 30カ国中最多**

◆ 保険者の破たん

・健保組合の**9割が赤字**

- 1,460のうち9割が赤字
- 毎年20程度が破たん

◆ 病院の破たん

・地域中核病院の**9割が赤字**

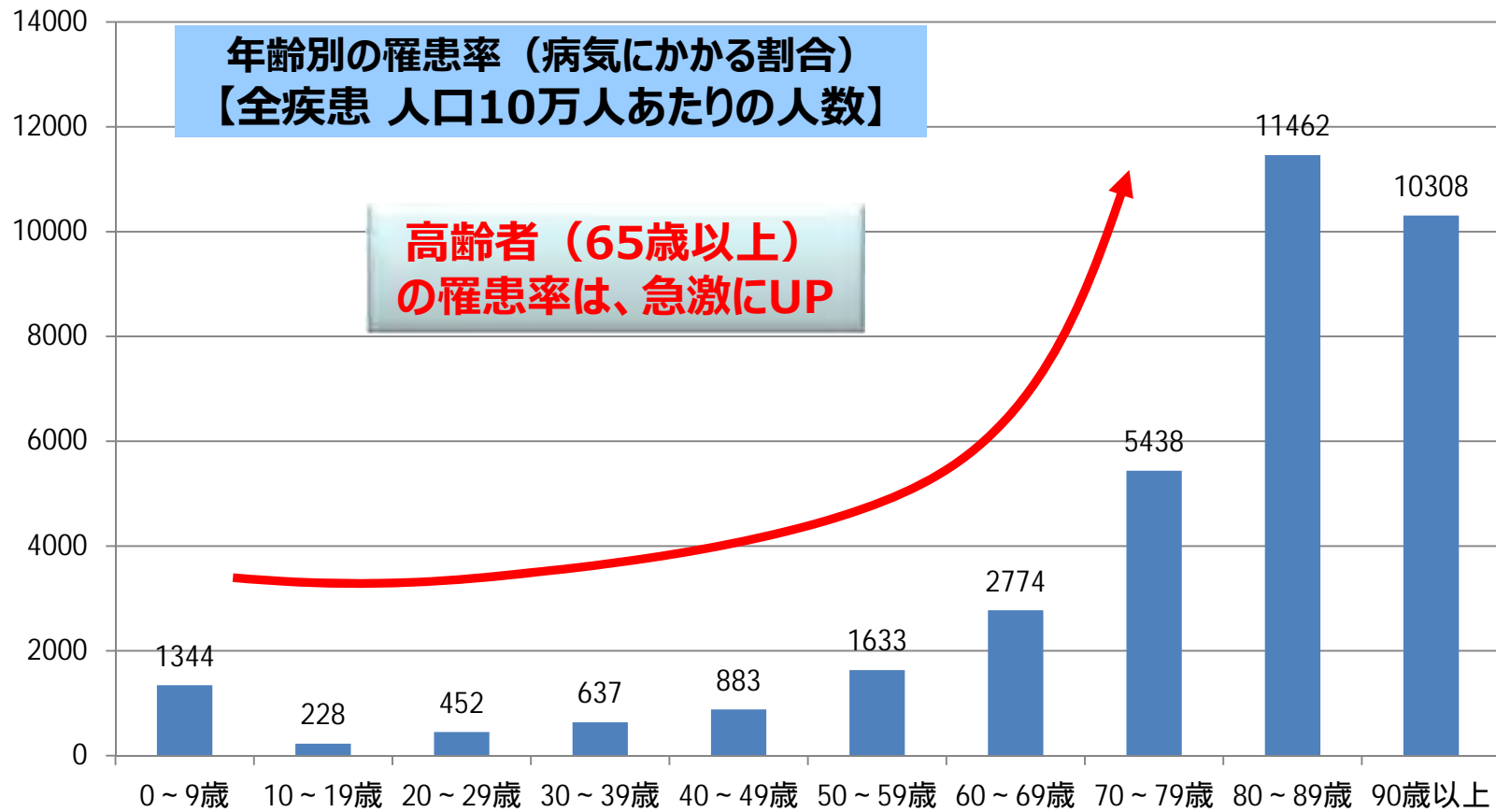
- 2,700のうち9割が赤字
- ・診療所の**5割が赤字**
- 99,000のうち5割が赤字

現行の国民皆保険制度破綻の危機！！

解決方法の一つとして

ICTの活用による医療の効率化が必須

年齢別の罹患率

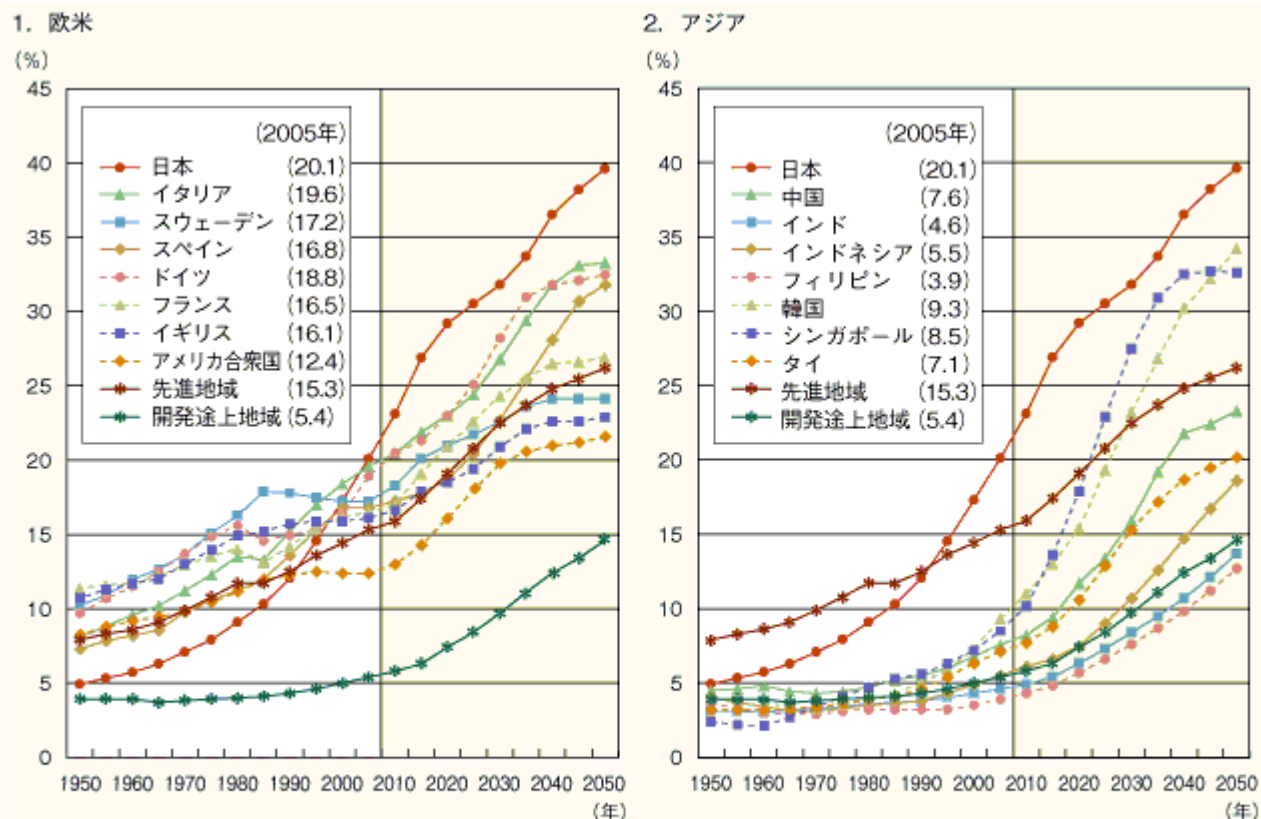


出展：厚生労働省 『平成21年地域保健医療基礎統計』
（※人口10万人）

- ・罹患率は、50代から見て70代は3倍、
60代から見て80代は4倍と高齢に成ると急激に増加

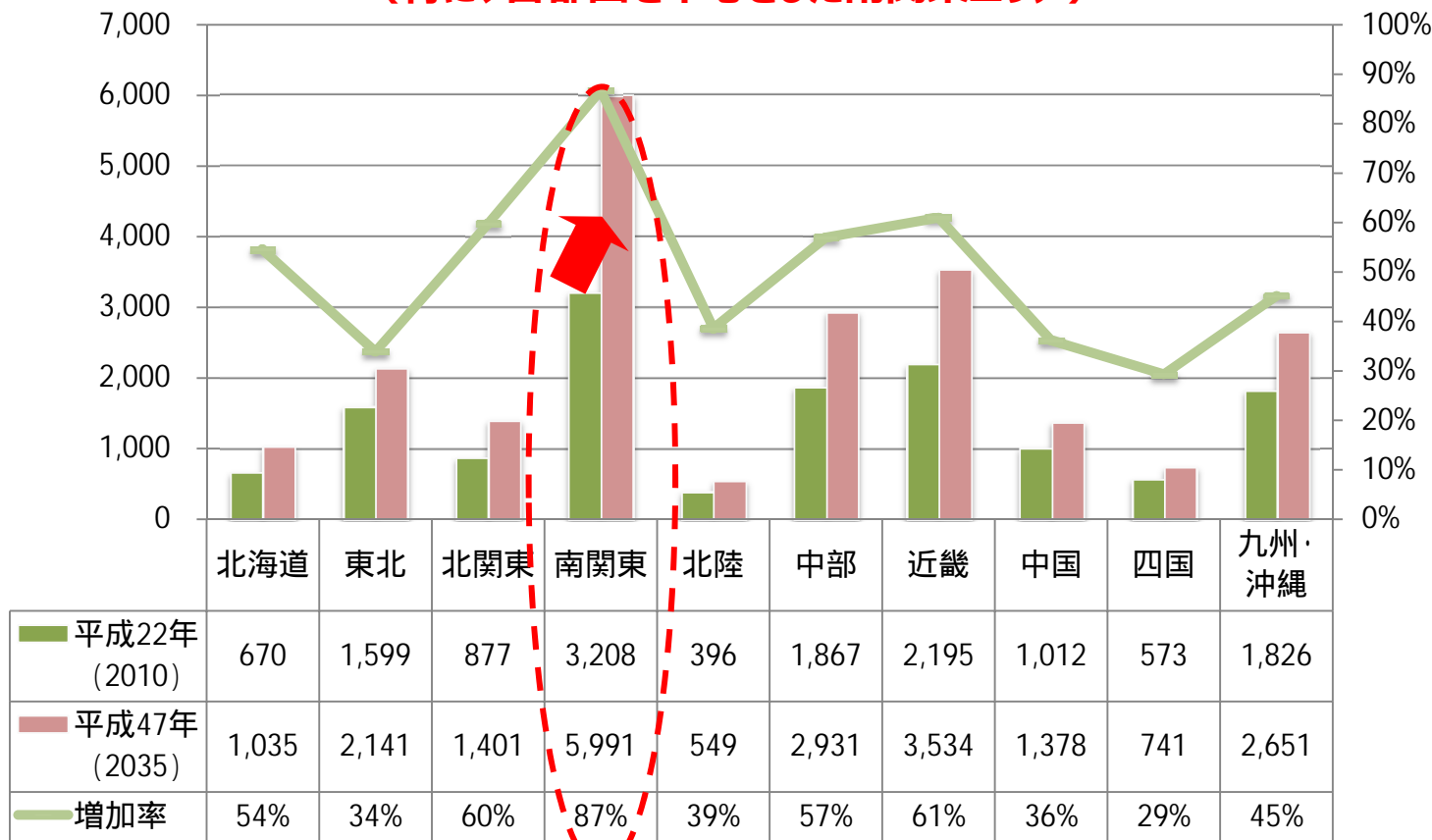
世界の高齢化率の推移

- 日本は、世界のどの国もこれまで経験したことのない高齢社会を迎えている
- 欧米ではイタリア、スペイン、アジアではシンガポール、韓国の高齢化率が高い



資料：UN, World Population Prospects: The 2008 Revision
 ただし日本は、2005年までは総務省「国勢調査」、2010年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。
 (注) 先進地域とは、北部アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。
 開発途上地域とは、アフリカ、アジア（日本を除く）、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。

各エリアにおいて後期高齢人口は急激にUP (特に、首都圏を中心とした南関東エリア)



出展：国立社会保障・人口問題研究所

『日本の都道府県別将来推計人口』（平成19年5月推計）

- ・後期老年人口（75歳以上）は、2035年までに急増する
- ・特に首都圏を含む南関東エリアでは高齢者向けの医療機関や介護施設の供給が追いつかない状態が想定される

対応策

想定されるシナリオ

① 高齢化の進展



② 高齢者の“高い”罹患率



③ 病院や介護施設の医療供給に限界



【在宅等への移行】 在宅での診療や介護施設へ患者が移される
医師不足に加え、医師や患者の移動負荷や時間負荷が発生



地域医療連携 (医療機関間の連携)

遠隔医療・介護 (離島、僻地だけでなく、都市部における遠隔地からの医療・介護行為)

医療・介護連携 (医療機関と介護施設の連携)

を具現化した地域包括ケアシステムの実現が重要



ICTを用いた情報連携による医療・介護の効率化が必要※

地域包括ケアシステムの実現イメージ

- 高度急性期への医療資源集中投入などの入院医療強化
- 在宅医療の充実、地域包括ケアシステムの構築

どこに住んでいても、その人にとって適切な医療・介護サービスが受けられる社会へ

改革のイメージ

